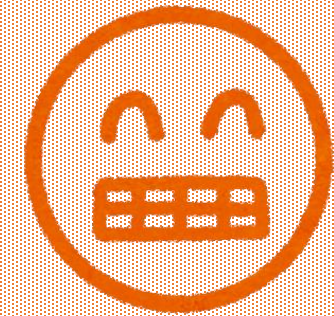


六郷助けあいプラットフォーム

話し合いの場



令和元年 9 月 3 日 (火)

本日のタイムスケジュール

時間	内容
18：30	前回の振り返りと今回の流れの説明
18：45	話し合い①【普段の活動・生活から見えてくる地域課題の共有】
19：30	話し合いの共有・まとめ
19：40	休憩
19：50	話し合い②【地域課題解決を進めるにあたって地域でできること、課題となっていること】
20：20	話し合いのまとめ
20：30	終了

月1回の集まりの2時間を有効的にしたい 今年度の進め方

- ・今度こんなイベントに参加してみる
- ・子どもに聞いたらこんなことが分かった
- ・今度こういう企画やってみようと思ってる。

18：30 「第1部」

現在の課題となっている子どもの実態把握と顔の見える関係づくり（交流の場の創出）の情報共有と次回までの行動目標について話し合う。

19：30～45 「第2部」 （必要に応じて実施）

- ① 「取り上げたいテーマ」をあらかじめ募集して話し合う。
- ② 勉強したいテーマについて学び合う。

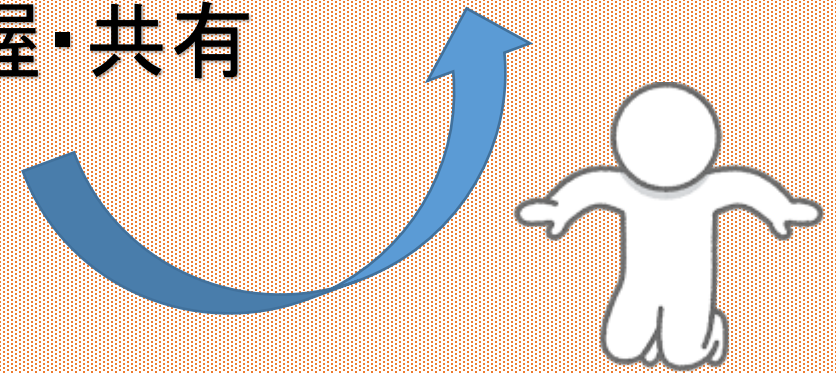
20：30

活動の報告・告知と共有

・月1回、報告・共有を実施することで

- ①お互いの活動内容を共有
- ②普段の活動から見えた地域の課題を把握・共有
- ③報告の場があることで把握力アップ

地域の
課題対応力
UP!



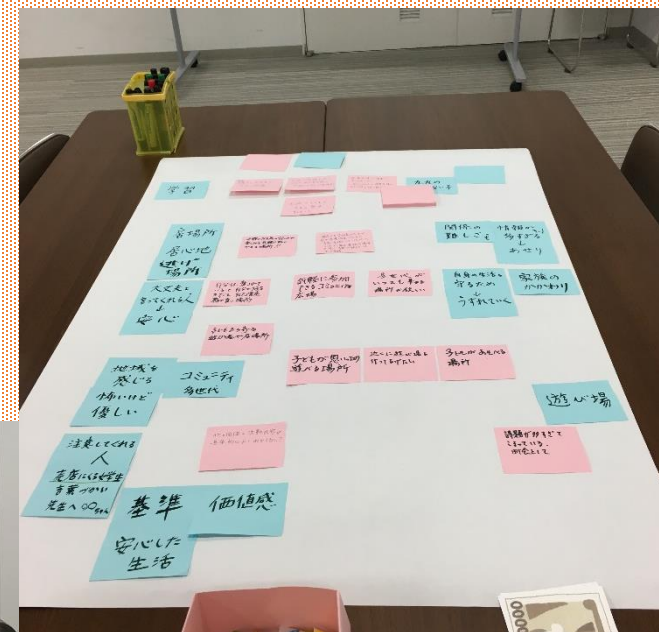
☆早期発見



話し合いで出た課題

Aグループ

- 子どもたちが安心して遊ばせる場所がない。
- 学習支援も大切と思うが、町内にフィールドアスレチック場をつかって、身体から健全な子どもを育てたい。横で見守り、老後を過ごしたい。
- 学習やマナーを学ぶことができる場所、タイミングがない。昔は銭湯が居場所だった。子ども同士で楽しみ、大人との係わりで学ぶことができた。
- 親になるための悩みや楽しみを共有できる場所がない。いつでも集まれる場所があれば、子育てに悩んでいる方の支援ができると思う。
- 情報に振り回される傾向がある。保健所の健診で、5つ以上の単語を言えないと要注意のようなことを言われる。子育て中の親が情報に振り回されている様子。
- 守秘義務の厳守、行政から調査を依頼されるが、その後どうなったかわからない。子どもの支援であれば、近所のおばさんとしての方がご飯を食べさせたり、話を聞いたりと直接支援ができる。立場が支援をできなくさせ、もどかしい。





話し合いで出た課題

Bグループ

●子どもは人と直接かかわることをめんどくさがるため、年の違う人との接し方がわからない。でもSNSを通じて、簡単につながってしまう。

●乳幼児のママが、必要なときに専門職へすぐつながれるしくみがあるといい。以前、児童館へ通っていた親子が転居することになったが、理由は、集合住宅階下から子（ADHD）の騒音苦情だった。児童館へ相談がなかったので支援できず悔しかった。若い世代はSNS等を使った相談がしやすいのかもしれない。

●中学校になると小学校で身についた習慣が崩れる。身支度（手洗い、歯磨き、食事の好き嫌い）。

●大田社協の夏ボラでボランティアが来るが、継続してもらえないか。

●行事の企画をしてくれる若手（50～60代）がほしい。

●勉強（足し算、引き算、読み書き）がわからない生徒が多いので、学習ボランティアがいたらいい。





話し合いで出た課題

Cグループ

- 親の環境（心身の状況や貧困）が子どもの背景にある。
- 昔は、PTAと話し合う機会があった。そこで、気になる子どもの情報について、民生委員の耳に入れてくれていた。現在は、そのような場がない。学校からはやってはいけないと言われているが、運動会などで「私たちは良い席でお子さんの写真が取れたから」などと言って、気になる家庭のお母さんに話しかけるきっかけを持っていた。今はそういったこともできないため、PTAとのつながりをつくりたい。
- 学校と情報を交換する場が必要と感じるが、「個人情報」の問題があり一向に進まない。この状況を何とかしないといけない。
- 昔と違い、子どもの情報を伝えにくい。しかし、必要に応じて伝えている現状もある。情報の発信の仕方を工夫することでクリアできないだろうか。
- 「個人情報」ではなく、「課題情報」とすることで、事例検討を通じて、学校で起きていることを地域に伝えることができるのではないか。
- 昔は、PTAから町会活動に入っていった。もう何十年もメンバーは同じ顔ぶれ。さまざまな人が混ざり合った支援が必要と思う。

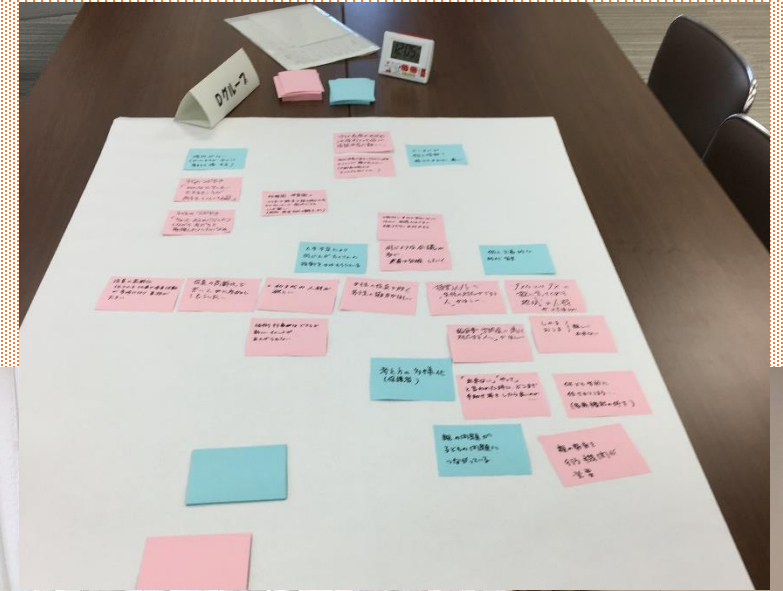




話し合いで出た課題

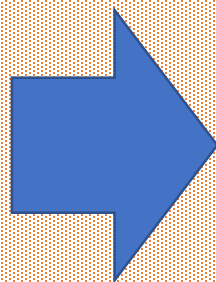
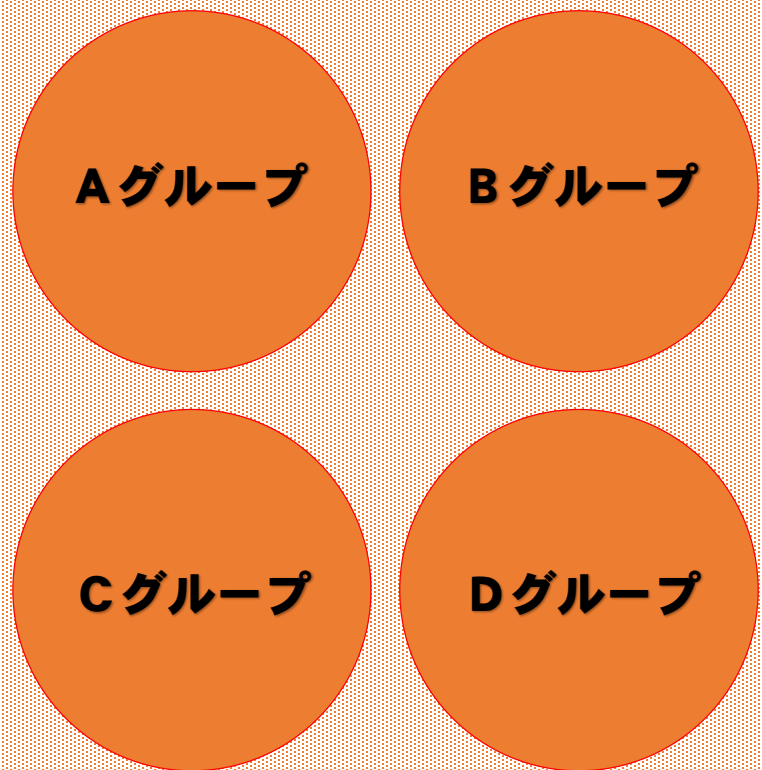
Dグループ

- 子どもが思いきり遊べる場所がない。子どもからは、特にボール遊びができないという話を聞く。
→公園などは、ボール禁止で安全に、思いきり遊ぶ場所がない。
- 遊具などはなくて良いのでただ、スペースが欲しい。その他にも、おしゃべりしながら勉強できる場所が欲しい。図書館はお話できないので勉強が教えられない。
- 子どもだけでなく親が大変で、どうしようもない親が多い。働きもせず、子どもの面倒をみていない。ただ、なまけているだけ。ガツンと言ってくれる人が欲しい。
- 親御さん自体も支援が必要な人は多い。
- 保護者の学校に対する要求が多様で対応できない。例えば、家庭教育がしっかりしているところは、進学塾のようなことを求め、家庭教育に関心のない家庭は、学校で遊ばせて欲しいという相容れない要求がある。個人主義的な考え方が背景にあって多様な役割が求められているがどんどんエスカレートしてわがままになっている。
- 個人個人の考えが多様化してきているので対応が困難な時代になった。





課題を分類すると・・・



4つの課題カテゴリーに分けられた

子ども

親・家庭

つまり、子どもの課題を解決するには
この4つの課題の壁を乗り越えることが必要

支援者

人材



課題の掘り下げ方

問題解決のステップ

1. **What** (何が問題か)
2. **Where** (どこが問題なのか)
3. **Why** (なぜそうなっているのか)
👉ココが掘り下げポイント。 **なぜ？なぜ？**を繰り返す
4. **How** (どうするのか)
⇒**本当に？** (反証してそれが正しいか確認)



話し合いで明らかになったこと

見えてきた課題の本質

子ども

- 子どもの実際（コミュニケーション方法・遊びなど）がわからないことが多い。
- 「わからない」ということも地域の課題である。

支援者

「個人情報保護」は壁ではなく、「個人情報をどう使い、管理するのか」の情報が共有されていないことが不安につながっている。ただし、本人同意を得ることは容易ではない。

親・家庭

- 必要なのに相談できない人、孤立している人が相談できる仕組みが必要
- SOSが出せる地域づくりが必要

人材

- ライフスタイルが変わってきていることをとらえていない。
- 手伝ってほしいことが明確にできていない。
- 今までのやり方を変えるのは大変である。

連携して取り組めること

- 支援者側がしっかりニーズを把握する。
- 支援者と支援されるの関係ではない交流の場、機会をつくる。
- いろんな側面の個人情報保護を勉強する。
- 助けあいのルールづくり
- 出来ないことを明確にした求人募集
- 知らない団体とももっと関わりを持つ

地域に足りない機能【募集掲示板】

- 子ども食堂や学習教室
⇒目的をきちんともったもの
- インターネットに関わるしくみ
- 親・子と地域が知り合える環境
- SNSやネットによる情報発信機能



平成30年度の話し合いの内容

地図で状況把握



地域だからこそ出来ることとは？



アイデアを整理

- ◎住民がSOSを出しやすく発見しやすいしくみ
- ◎地域活動に参加しやすいしくみ
- ◎まちに関心をもってもらうしくみ

しくみが整うために必要なことを考察

- 「**交流の場**」を地域住民が作ることによって**顔のみえる環境を整備**できる。
- 子どもや知り合いなど**誰かと一緒なら**参加しやすい。
- 子どものころからの関係づくり**が大事。

◎見えてきたこと

- 公園に子どもたちが多く集まっている。
- でもその公園で子どもを見守るしくみが少ない。
- その地域、世代ならではの集まる場所がある。
- 地図上だけではわからない子どもたちの実態はまだ見えない。

◎見えてきたこと

- 大人が楽しそうに活動をしていることが町の良い雰囲気をつくる。
- 何か地域のためにやりたいと思っている人は結構いる。でもなかなか入るのが難しい。

上記3つのしくみを整備することが課題解決の最初の一步



今年度の報告のキーワード

多世代交流

- ・居場所には色々な人がいることが強み
多世代交流をすることで地域に根づく文化ができる
- ・子ども×高齢者のイベント
小さなうちから高齢者のことに興味を持ってもらう

複合的な相談

- ・相談機関に、専門外の相談が持ち込まれる
8050問題や、70 40 15問題など新たな課題
や複合的で困難な課題が起きている。
地域で、どのように支えるか。発見できるか

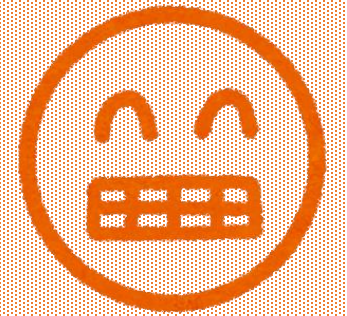
交流・連携企画

- ・いこいの家×保育園や読み聞かせ
包括×児童館
- ・空き店舗の活用
- ・イベント協力・チラシや広報の協力

居場所・見守りのしくみ

- ・実際に居場所に困っていそうな方が
来た時にどうSOSをキャッチするか
- ・商店街を子どもの居場所にできないか
- ・昔の個人店の声かけや見守り機能を
コンビニでできないだろうか

① 普段の活動・生活から見えてくる地域の課題の共有



グループでの話し合いの仕方

①

ふせんに課題を記入してね

5分



②

グループで発表しましょう

10分



③

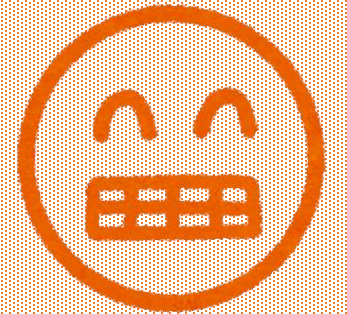
グループで課題について話し合いましょう

30分



②課題解決を進めるにあたって

- 地域でできること
- 課題となっていること



次回 10/1 (火) 18:30~

多世代交流の場のしくみ

- **活動の継続のために必要なもの**
- **SOSが捉えられる交流の場**

